



戦争反対、平和を築く

JCJ 2025年 12月集会

戦後80年からのジャーナリズムに求められること

戦後80年、人々が築き上げてきた「平和日本」は、軍拡へ進む政権の動きに揺らぎが続いています。JCJでは「戦後80年 ストップ軍拡！キャンペーン」として、去年の8月から3回にわたって集会・シンポを開催してきました。締めくくりとなる今回は、戦後80年からのジャーナリズムに求められること、そして一人ひとりのジャーナリストの足腰を強くしていくためにはどうすればよいのかについて考えます。

■日時・場所 12月6日(土) 13:00～16:30 (開場 12:30)
東京・渋谷 渋谷区勤労福祉会館 第1洋室 オンライン配信あり

■報告とシンポジウム

上丸 洋一さん (ジャーナリスト)
鈴木 エイトさん (ジャーナリスト・作家)
中川 七海さん (ジャーナリスト)

■タイムスケジュール

12:30 開場
13:00 開会挨拶 (川田 マリ子 JCJ運営委員)
13:05 報告・問題提起
上丸 洋一さん 「新聞の戦後責任と今ここにある危機」
鈴木 エイトさん 「メディアとジャーナリズムの可能性」
中川 七海さん 「個として立つジャーナリスト」と「コラボレーション」
14:45 休憩
15:00 シンポジウム
コーディネーター (古川 英一 JCJ事務局長)
16:15 12月集会アピール 読み上げ 藤森 研 (JCJ代表委員)

16:20 閉会挨拶
16:30 閉会
* 集会終了後 会場近くで懇親会開催

■賛同団体

日本マスコミ文化情報労組会議 (MIC) 放送を語る会 マスコミ市民
メディア総合研究所 沖縄・琉球弧の声を届ける会

戦後80年からのジャーナリズムに求められること

80年前、多くの人々の命やかけがえのない日常を奪った戦争が終わりました。焼け跡からスタートした戦後の人々の歩みは「平和への誓い」とともにあったはずです。

戦後80年、今の日本の現状は、そうした戦後の人々の歩みや願いに応えることができたといえるでしょうか。10年前に、当時の安倍政権が集団的自衛権の行使を認めた安保法を成立させて以降、日本は「戦争のできる国」へと踏み出し、平和の石垣は切り崩されています。

こうした動きに抗い、警鐘を鳴らしていこうと日本ジャーナリスト会議（J C J）は去年から戦後80年の今年にかけて、集会・シンポジウムを3回にわたり開いてきました。

そうした中、今年10月に右派の高市政権が発足しました。高市首相はさっそくトランプ大統領との蜜月を演出し日米同盟の強化を打ち上げる一方、台湾有事が「存立危機事態」になりうると国会で答弁し、日中関係に亀裂を入れました。防衛費のGDP比2%達成を前倒しするだけでなく、スパイ防止法の制定や国家情報局の設置、非核三原則の見直しなどにも前のめりの姿勢を示しています。「戦争ができる国」へのアクセルは一層加速されています。

こうした厳しい状況のなかで、締めくくりとなる4回目のきょうの集会・シンポジウムでは、戦後80年後のこれからへ向けて、ジャーナリズムに求められることは何なのかを考え、話し合いました。戦前のジャーナリズムが戦争を煽り加担した過去から学び、ジャーナリズムは何よりも戦争へ向かう権力の動きや社会の雰囲気、厳しくチェックしていかなければならないと心に刻みます。J C Jは「再び戦争のために、ペン、カメラ、マイクをとらない」という決意のもとにスタートしました。その決意の実践がいま、強く求められています。

きょうの集会が戦後80年積み上げられてきた平和を守り、「戦争ができる国」への流れを断ち切っていくために、ジャーナリズムが、そして一人ひとりが何をしていくのかを考えていく一歩になることを願っています。

2025年12月6日 日本ジャーナリスト会議（JCJ）